

(8) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

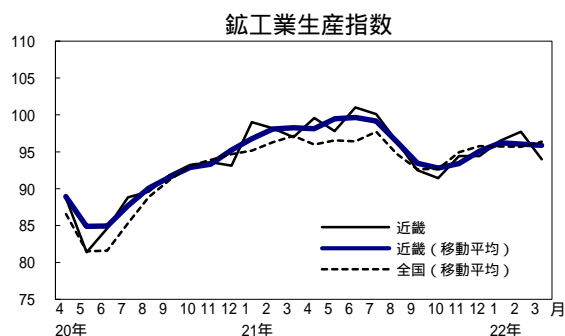
前回からの主要変更点

	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	持ち直しの動きがみられる

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、化学や電気・情報通信機械が増加したこと等により、前期比2.9%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
化学	12.4	6.8	2.8	3.5	0.6	1.5
電気・情報通信機械	11.7	2.2	2.8	7.0	20.0	9.7
汎用・業務用機械	10.4	6.3	1.9	8.6	1.6	4.6
生産用機械	10.1	3.9	1.6	10.4	2.6	7.5
輸送機械	8.7	8.5	2.3	7.8	12.3	4.9
鉱工業	100.0	3.0	2.9	2.2	1.2	3.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

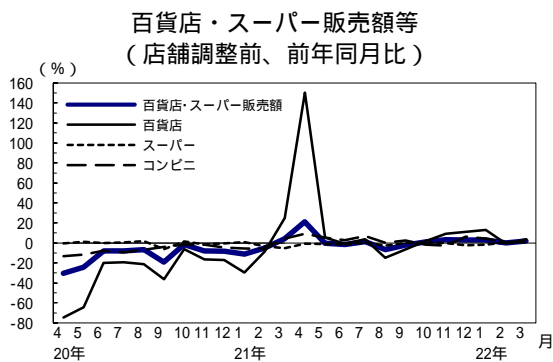
個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

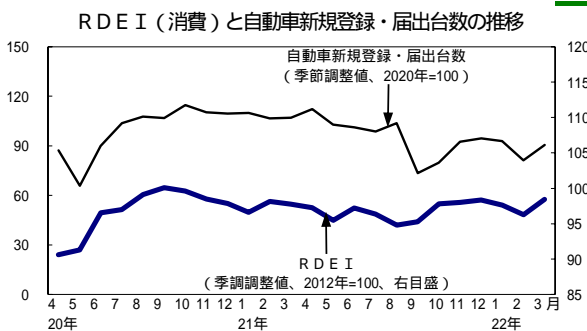
1 - 3月期は前期比0.6%減となった。月別にみると、1月は前月比0.7%減、2月は同1.4%減、3月は同2.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比1.7%増となった。月別にみると、1月は前年同月比2.9%増、2月は同0.1%増、3月は同2.0%増となった。



	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.6	0.7	1.4	2.3
百貨店・スーパー(*2)	1.7	2.9	0.1	2.0
百貨店(*3)	5.3	13.0	0.7	3.7
スーパー(*3)	0.1	1.6	0.5	1.0
コンビニ(*3)	2.4	4.3	0.4	2.3
乗用車(*4)	18.7	15.8	23.9	16.7
(季節調整値)(*4)	0.7	1.7	12.5	11.5

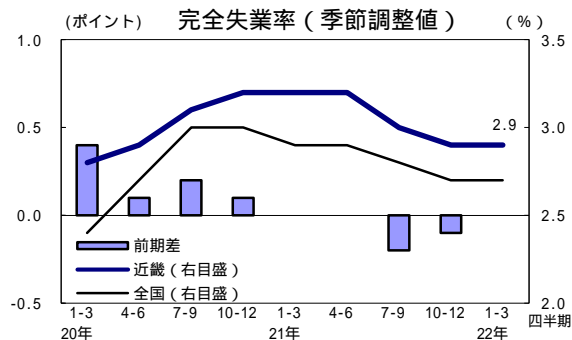
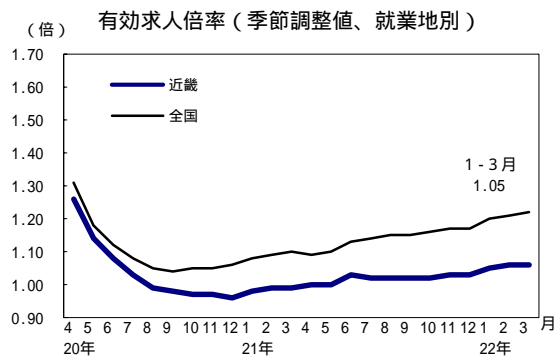


- (備考)
1. 季節調整済前期(月)比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

8. 近畿

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・商店街の近くに桜並木があり、桜の開花とともに人通りが増えた。どの店も繁盛しているように見えたが、桜が散ると人通りも少なくなり、閑散としている(一般レストラン)。
			・学生の修学旅行や遠足などが中止となる傾向が落ち着き、積極的に移動するようになっている(テーマパーク)。
			・原油や原材料相場の上昇、円安やウクライナ危機による影響が、確実に食品全体の価格上昇につながっている。単価がアップした分、購買点数が減り、割安な商品に需要が向かう傾向にある。物価上昇が続くという考えが浸透し始め、確実に財布のひもが固くなり始めている(スーパー)。
	企業 動向 関連		・引き合いは増えているが、材料が入ってこない上に、価格の上昇による悪影響が出ている(その他非製造業[商社])。
			・仕入価格が高騰しており、販売価格への転嫁を進めているため、受注に影響が出ている(電気機械器具製造業)。 ・3回目のワクチン接種を済ませた人が増えたこともあり、人の流れが増えている。新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、営業する飲食店も増え、景気が少し良くなっている(食料品製造業)。
雇用 関連		・医療職や看護職を目指す人向けの奨学金募集の説明会に、多くの医療機関が参加した。医療機関によると、採用者のうち短期間で退職する人は減少傾向にあるが、特に看護職については、人手不足が顕著であると感じる(学校[大学])。	
		・投資効果が出るまでに時間の掛かる製造業でも、求人数が顕著に増加している(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			：まん延防止等重点措置が解除されてから、近隣企業に出社する社員が少し増えたようで、朝と昼のピーク時の来客数が微増となっている(コンビニ) ×：輸入業では、燃料費や輸送コストの増加もさることながら、極端な円安の長期化で大打撃を受けている。努力によって販売価格を抑えられる範囲を既に超えている(住関連専門店)。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・気温の上昇に伴い、季節商材の販売が伸びてくるが、巣籠り需要の反動減の影響が懸念される。エネルギー価格の上昇で省エネ製品への関心が高まっていることが、唯一のプラス材料である(家電量販店)。
			・直近の客の購買行動をみると、消費に対する前向きなマインドが戻りつつある。このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、夏休みシーズンのファッションや雑貨、旅行用品などへの需要は強まることが予想される(百貨店)。
	企業 動向 関連		・建設資材価格の高騰で、設備投資の予算とのかい離が広がっている。建設資材の納期も不透明で、工期も不確定という状況である。今後は設備投資の予算や計画について、大幅な変更が必要となる(建設業)。
			・急激な円安やウクライナ危機による更なる原油相場の高騰で、企業収益が圧迫される可能性が高い。以前は、製造業などで円安効果が得られたが、海外生産などの動きが進み、以前ほどは期待できなくなっている。むしろ、輸入価格の高騰が収益を圧迫する傾向にあるため、先行きの見通しはやや悲観的にならざるを得ない(窯業・土石製品製造業)。
雇用 関連		・新型コロナウイルスによる特需案件が落ち着きつつある一方、通常の派遣求人が増加傾向になると予想される(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			：まん延防止等重点措置も解除され、通常の生活が戻ってきている。求人件数も前々年を超える状況であり、景気の回復が感じられる(人材派遣会社) ：住宅展示場の出展各社からは、世界情勢の変化で建築資材の高騰が続き、建築単価の上昇が避けられないため、客の様子見が続くという声が多い(その他住宅[展示場])。

(DI) 現状・先行き判断DIの(近畿)推移(季節調整値)

